

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 一般-110

学校名・団体名	竹富町立古見小学校
HPアドレス	<a href="http://www.taketomicho-boe.jp/06/?_layoutmode=off">http://www.taketomicho-boe.jp/06/?_layoutmode=off</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	豊かな感性と生きる力の育成を目指した環境教育 の実践
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>平成6年から20年間以上継続して取り組んでいる「ちょうの観察と保護」・環境活動を、今年度も全校体制で生活科及び総合的な学習として引き続き取り組み、身近な環境問題を理解し関心をもち、動植物を愛護し、生命を尊重し、環境問題を主体的に捉え、その改善に向けて行動できる児童の育成を図る。</p>	

## 第15回 ちゅうでん教育振興助成(平成27年度)実施報告書資料

竹富町立古見小学校

研究テーマ

### 豊かな感性と生きる力の育成を目指した環境教育の実践

#### 1 はじめに

本校は、日本の南端、西表島の東部地区にある創立120周年を迎えた伝統のある学校である。西表は、東洋のガラパゴスと呼ばれるように自然豊富な生物多様性に富んだ地域である。

本校は平成27年度で創立120周年を迎えた伝統のある学校である。児童数は1年生1名、2年生4名、4年生4名、6年生3名の全校児童12名で2複式学級で構成され、職員は、校長、教諭2名、養護教諭、事務主事、世話人、スクールバス運転手の計7名と非常勤講師・特別支援員3人の極小規模校である。

平成6年から20年以上、継続して「チョウの観察と保護」に取り組み、平成8年度と平成25年度に全国野生生物保護実績大会において環境庁長官賞と林野庁長官賞を受賞、ずっと伝統として継続し、全校体制で生活科及び総合的な学習の共通テーマとして、「豊かな感性と生きる力の育成を目指して～「チョウ」の観察活動をとおしてチョウ博士になろう～」を設定し、西表のチョウの観察と保護を続けている。



平成6年から20年以上、継続して「チョウの観察と保護」に取り組み、平成8年度と平成25年度に全国野生生物保護実績大会において環境庁長官賞と林野庁長官賞を受賞、ずっと伝統として継続し、全校体制で生活科及び総合的な学習の共通テーマとして、「豊かな感性と生きる力の育成を目指して～「チョウ」の観察活動をとおしてチョウ博士になろう～」を設定し、西表のチョウの観察と保護を続けている。

#### 2 活動の様子

##### 1) プロジェクトリーダーによるチョウ観察での活動

全教育活動で児童のプロジェクトリーダーを中心に、企画運営し、意見を出し合ったり考えたり、わかりやすく情報をまとめ直したり、振り返り(表現力)を大切にしながら進めている。

特にチョウの観察は全校体制で20年間継続して進めていたが、させられてやっているようなマンネリ化があったので、まず最初にプロジェクトリーダーを取り入れ自主的に活動する仕組みを作った。



生活科及び総合的な学習の共通テーマとして、「豊かな感性と生きる力の育成を目指して～「チョウ」の観察活動をとおしてチョウ博士になろう～」を設定し、チョウの観察・保護に努めてきた。

##### ① 全児童でチョウ観察記録を取り発表する。

校内に観察地点を決め、毎週水曜日の朝8:15から8:30までの間、4月から2月まで、縦割りの3人グループで、古見小校内の15種類の食草のチョウの卵、幼虫、さなぎの数を数え、表にまとめ、観察してわかったこと感じたことを全体会で発表して確認する。

また、図書館で、羽の模様、生息地、オスとメスの区別や食草について調べ食草マップにまとめる。毎週の観察データを元に、パソコンでデータ化し比較検討を行い、新聞等にまとめ発表し合う。

##### ② チョウ・食草検定の実施

全校生徒を対象に、チョウの関心を高めるために、7月と2月の年2回、チョウの成虫、幼虫、食草の検定を行っている。

### ③ 観察結果

- ・ある時期にだけ見ることができたチョウや、1年中見ることができたチョウがいた。
- ・ほぼ1年中見ることができたチョウは、オオゴマダラ、カバマダラ、リュウキュウアサギマダラの3種類だった。
- ・オオゴマダラやカバマダラ、スジグロカバマダラは、年度ごとに発生する時期が違っていった。食草の多いときと少ないとき、気候や食草の多さ等が影響していると考えられる。今年度は春と秋によく見られた。(4~5月、9~10月)
- ・イシガケチョウは、葉を食べるとき、芯を残す食べ方をするので、その食べた後を見るとすぐに見つけることができた。
- ・大雨後には、ほとんどのチョウの卵、幼虫、さなぎの数が少なくなった。幼虫は葉の裏に隠れていることがあった。
- ・前週まで数が少なかったのに急に増えたり、とても多かったのに急に減っていたり、一週間でも数の変化があることが分かった。
- ・ツマベニチョウなどは、幼虫が大量発生しても食草が少ないとチョウだらけにならないことが分かった。キチョウなどは、食草が多かったので大量に成虫になりチョウ園いっぱいになった。
- ・オオゴマダラの口が左右にドアのように開閉する『顔パカ』を発見した。



スジグロカバマダラ①台風のめに乗って移動するチョウ。古見小学校では、台風が来て、1週間くらいたって卵が増えてきていた。

### ④ 成果

- ・一週間ごと、決まった時間に観察を続ける事で、チョウが産卵する時期や季節が詳しく分かるようになった。
- ・オオゴマダラやイシガケチョウを教室内で飼育し、蛹から成虫へ羽化する様子を観察することで、チョウに対する関心が深まり、調べ学習に対する自主性が出てきた。
- ・日頃の観察だけでは解決しない疑問や問題を本やパソコン、辞典を使い、自ら進んで解決しようとする態度が見られる様になってきた。
- ・異学年の縦割りのグループを作り観察をすることで、自分たちで教え合い学び合いの場面が見られるようになってきた。
- ・プロジェクトリーダーを中心に自分たちで活動を行うことで、児童達に調べ学習や調査に対する意欲が生まれ、積極性と自主性が育まれてきた。
- ・チョウ観察後の全児童の発表活動を行うことによって、児童の聞く態度、人前に出て話す事ができる力の育成につながっている。

### ⑤ 課題

- ・幼虫が食草を食べ、えさが不足したり途中でなくなることもあったので、年間を通したチョウ園の管理をしていきたい。
- ・児童が自信を持って発表するようになってきている。筋道を立てて話す事を意識した育成を継続指導していきたい。
- ・卵から成虫までの育成がまだ上手くいっていない。小さな幼虫の飼育が難しいので、飼育方法の研究が課題である。